



令和5年11月8日(木) 名古屋市立千音寺小学校での出前講義
「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」
「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」(共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO)、Eプロ)

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすりの適正使用」や「乱用薬物の危険性」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO) の協力の下に行っています。名城大学 Enjoy Learning プロジェクト (通称：Eプロ) の活動として今年度5回目になります。

名古屋市立千音寺小学校 (伊与田玲子校長) の6年生主任 高井要治先生のご尽力により、令和5年11月8日(水)、名古屋市立千音寺小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて開催しました。当日は、6年生の児童92名が講義や体験・観察実験から「くすり」と「乱用薬物」について学び、「お茶に鉄のくすりを入れたら真っ黒になった!」「発泡スチロールが溶けちゃった!」と大好評でした。

名古屋市立千音寺小学校における「くすり教室」

日時：令和5年11月8日(水) 11時00分~11時55分

場所：名古屋市立千音寺小学校 体育館

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

「くすり」をどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるかについての講義をQ&A方式の児童参加型で行いました。学部5年の加藤拓真がスライドを使用して分かりやすく説明しました。児童は問い掛けに対して元気よく挙手して積極的に答えてくれました。新型コロナウイルス・ウイルス感染症に対する適切な手洗いやで洗い残しが多い部分や適切なマスク着装に加えて、目薬の正しい使い方や保管場所についてもQ&A方式で講義を行いました。

・「体験実験」

児童は15グループ(1グループ6~7名)に分かれ、学部5年の加藤拓真がスライドを使用して、実験する目的を説明しながら体験実験を行いました。体験実験では、より理解できるように鍋島俊隆先生(NPO J-DO 理事長)、名城大学薬学部 野田幸裕教授(NPO J-DO 副理事長)、間宮隆吉准教授(NPO J-DO 理事)、薬学生(病態解析学I 院生1名、Eプロ・5年生7名、薬品作用学研究室5年生7名)が補助しました。

制作：名城大学薬学部病態解析学I
(森川和那、野田幸裕)
薬品作用学(間宮隆吉)
監修：NPO J-DO



<実験項目>

実験 1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験 2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験 3：「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？

実験 4：「うがいぐすり」でうがいた後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

名古屋市立千音寺小学校における授業

「乱用薬物には絶対、手を出さない！」

日時：令和 5 年 11 月 8 日（水）11 時 55 分～12 時 20 分

場所：名古屋市千音寺小学校 体育館

内容

- ・「乱用薬物には絶対、手を出さない！」：講義と観察実験

乱用薬物はどうして怖いのか、どのような薬（ドラッグ）がドラッグとして乱用されているか、身近にある乱用されやすい薬物の害とは、なぜ害があると分かっているのか、身近にある薬物を乱用するのか薬物乱用はどうして怖いのか、身近に乱用されている薬物の正しい情報、なぜ害があると分かっているのか薬物を乱用するのかについて、野田幸裕教授がスライドを使用して分かりやすく説明しました。講義では、「タバコによって成長はどうになってしまうのだろう？」について、タバコを含む水で植物を育てると成長が遅くなるということをハツカダイコンの連続写真を用いて示しました。「お酒を飲むと脳の細胞や肝臓はどうになってしまうのだろう？」「シンナーを吸うと体はどうになってしまうのだろう？」については各グループにおいて薬学生による観察実験を行いました。

児童からは「危険ドラッグを勧められても断るよ！」という感想や、「レバーや卵の白身がアルコールによって白くなっちゃった！」「シンナーをかけると発泡スチロール（ヒト細胞）が一瞬で溶けちゃった！」という驚きの声が多く上がりました。タバコやお酒、危険ドラッグが体にどのような影響を与えてしまうのか、どのように乱用薬物から自分の身を守れば良いのかということ、講義や観察実験を通して学ぶことができました。

